

CONTENTS

秋季企画展 幕末の津和野藩と洋学	2
後期企画展 旅する洋学者たち	3
学会誘致開催・オムニバス講演会	4
友の会の活動	5
NEWS FILE・新収蔵資料紹介	6
資料館展示品から	7
INFORMATION（催し物のご案内）	8

洋学 資料館

No. 37
March, 2026



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

大分県の中津駅に降り立つと、中津市出身の福沢諭吉の大きな看板が目に見え、目に飛び込んできます。駅前のロータリー中央には銅像が立ち、中津市民の先人への強い思いが感じられます。

令和3年(2021)10月に津山市と島根県津和野町、大分県中津市は歴史・教育・観光面での連携を約束し「蘭学・洋学 三津同盟」を締結しました。その後、博物館同士の交流企画展や小学校同士のオンライン授業、各市町の祭イベントへの出展等々を通じて様々な事業展開を実施し、今年には締結5周年を迎えます。

文・写真：名誉館長 下山純正



秋季企画展

幕末の津和野藩と洋学

■会期：令和7年10月11日（土）～11月16日（日）

石見国津和野藩の最後の藩主亀井茲監は、国内外の情勢が大きく変わっていった幕末期に、藩校養老館の改革に着手しました。この改革によって津和野藩への洋学導入が本格化します。この企画展は「蘭学・洋学三津同盟」事業の一環として、幕末の津和野藩における洋学に注目しました。

「嘉永2年の教育改革」では、養老館に「蘭医科」と「西洋砲術」の科目が新設されたことに着目しました。蘭学の導入には藩医吉木蘭齋が大きな役割を果たします。当時の医学書が津和野への洋学の浸透を物語っています。加えて、蘭齋は医学書の読解に必須のオランダ語教育も主導しました。蘭齋の著書であるオランダ語の入門書『西学入門』は藩士たちが語学を学ぶ上で必読の1冊でした。その序文を津山出身の洋学者實作阮甫が書いていることは注目すべき事実です。

「堀田仁助の蝦夷地測量」では、18世紀末に幕府の天文方職員として蝦夷地（現在の北海道）の測量を行った、津和野藩士堀田仁助の業績に焦点を当てました。当時、ロシアからの外圧が強まる蝦夷地と江戸を結ぶ航路の開拓が急務でした。津和野に残る「從江都至東海蝦夷地針路之図」や天球儀・地球儀は、仁助の蝦夷地測量の様子を示す貴重な資料です。この測量は蝦夷地全体の測量ではなかったものの、徒歩による測量と天体観測を用いて現在の北海道の形を調査した初めての事例でした。伊能図で有名な伊能忠敬は、仁助が測量を行った1年後に蝦夷地の測量を実施しました。仁助がもたらした成果は忠敬の測量事業にも参照されたようです。

会期中は、多くの方が来場し、津和野藩において洋学がどのように浸透したのか、資料を通じて興味深く見学されていました。



後期企画展

旅する洋学者たち

■会期…令和7年12月6日(土)～令和8年2月15日(日)

江戸時代、いわゆる「鎖国」体制下の日本では、海外の情報や知識は、わずかに渡来する書物によって得られるのみでした。そのため、蘭学を始めとする、西洋の学問を志す者たちは、最新の情報を求めて、江戸や長崎に向きます。やがて開国すると、彼らは大志を抱いて海外へと旅立っていききました。そうした洋学者たちは旅先でどんなことを見聞し、何を感じ取ったのか、その一端を紹介しました。

津山藩医で蛮書和解御用に任じられていた箕作阮甫は、ロシア使節と交渉のため、異国船を追いかけるように日本中を奔走した人物です。嘉永6年(1853)には幕府の勘定奉行 川路聖謨に随行し、長崎へ赴きました。その帰路では、ペリー艦隊の2度目の来航の知らせを受け、急遽、江戸へ向かう様子など緊迫した状況を伝える手紙が残されています。その8ヶ月後には、ロシア使節が下田に来航し、交渉にあたることとなりますが、不運にも安政の大地震による大津波が発生。阮甫の漢詩には、津波から命からがら逃げた様子が詠まれ、当時の日本の社会情勢をうかがい知ることができます。

また、津山出身の化学者 久原躬弦は東京大学を卒業後、明治12年(1879)に特別奨学生として、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学に留学しました。現地から両親に宛てた手紙には、ニューヨークの情景として、高架鉄道やエレベーターについて図を用いて説明している、まだ日本にはなかった技術の数々にとても驚いたようです。

本展では、日本国内の旅と海外への旅、2つを大きなテーマとして構成し、徒歩が中心であった旅から、船、鉄道へと交通手段が目覚ましく発展していく様子も紹介しました。洋学者たちが生きた時代を想像しながら、彼らの旅を追体験できる機会となりました。

交通史学会・歴史地理学会

合同例会を誘致開催

12月6日（土）、交通史学会と歴史地理学会を津山市に誘致し、合同例会を開催しました。

例会には、学会関係者と一般参加の50名が聴講され、まず、常設展示とこの日に開幕した企画展「旅する洋学者たち」の展示解説を行いました。

その後、研究例会が行われ、下山純正名誉館長、小島徹館長、青山学院大学教授の落合功氏、安来



合同例会の様子



津山郷土博物館にて

市加納美術館参与の神英雄氏による報告がありました。報告では、洋学資料館の歩みや城下町津山についての紹介のほか、津山市と「歴史友好都市縁組」を結ぶ、小豆島や「蘭学・洋学三津同盟」を結ぶ、津和野町に関連する話があり、聴講された方は興味深く聴き入っていました。

翌日には、当館職員の案内で泰安寺の宇田川家三代墓所や西今町の翁橋、二宮の西松原跡や河辺の榊形のほか、津山郷土博物館で大名行列図の実物大レプリカを閲覧するなど洋学や交通史にまつわる史跡を見学しました。

オムニバス講演会

「洋学あれこれ Part V」

1月25日（日）、GENPOホールにてオムニバス講演会を開催しました。今年は「洋学あれこれ Part V」と題して学芸員が日々の研究成果を報告しました。

はじめに、魚谷なつみ学芸員が「箕作佳吉のラブレター」というテーマで報告しました。動物学者として知られる箕作佳吉が妻の安子に宛てた手紙から妻への深い愛情を示す記述を紹介しました。手紙には「恋しき吾妻 安子」という表現が見られ、研究者とは違った佳吉の一面が垣間見えます。

次いで、松田拓磨学芸員が「近世の医学書に見る現代の生活習慣病」というテーマで報告しました。津山藩医宇田川玄随が翻訳した『西説内科撰要』の記述などから、生活習慣病の痛風が当時ほどのように理解され、医学書に記述されていたかを紹介しました。

最後に、梶村明慶次長が「記録に見る津山藩医芳村杏齋の足跡」というテーマで報告しました。津

山藩医時代の活動や、その後、大阪に出て病院に勤務していたこと、大阪での激務が災いして体調を崩し、津山に戻ったことなどを一次史料に基づいて紹介しました。

当日は寒波の到来で悪天候だったにも関わらず45名の方にご聴講いただきました。



オムニバス講演会の様子

友の会の活動

第38回史跡見学会

百間川と錦秋の後楽園に
津田永忠の面影を訪ねて

11月23日(日) 第38回史跡見学会を開催しました。今回は、百間川の治水や後楽園の築庭に携わった岡山藩士津田永忠なかつたの面影を訪ねて、百間川流域に残る遺跡と後楽園をめぐりました。

この見学会には、岡山県郷土文化財団主任研究員の万城あき先生まんじょうにご同行いただき、各所で解説をしていただきました。

まずは百間川流域の治水に関する遺跡を見学しました。百間川は旭川増水時に岡山城とその城下町を守るための放水路として整備された川です。

続いて沖田神社を訪ねまし



百間川一の荒手前にて

た。ここには津田永忠の像が安置されているほか、部下などが奉納した手水鉢や石灯籠などが残されています。

そして、百間川河口にある河口水門を見学しました。百間川河口周辺は干拓地のため海面より低く、海水流入を防ぎながら排水を行うため、潮の満ち引きにあわせて水門の開閉を行っており、現在も昭和43年、平成27年に完成した水門で管理をしているとの説明がありました。



百間川河口水門にて

見学コース

- ①百間川一の荒手
- ②米田の旧堤防
- ③沖田神社
- ④百間川河口水門
- ⑤昼食 四季彩 (後楽園前)
- ⑥岡山後楽園

後楽園前で昼食を取り、午後は後楽園を散策しました。ここでも万城先生から後楽園の成り立ちや、施設についての説明をしていただきました。

この日は暖かく絶好の行楽日とで、参加者の皆さまも万城先生の解説に興味深そうに聴き入っておられました。

友の会有志による
植栽整備

ポランティア

11月3日(月)、友の会有志による資料館前庭の植栽整備ポランティアを行いました。この日は開始直前まで雨が降り、実施が危ぶまれましたが、なんとか天候が回復し、無事行うことができました。風も強く、肌寒い中での実施でしたが、会員8名に参加いただき、おかげで薬草こみちの小径もとてもきれいにさっぱりとなりました。



NEWS FILE

スポット展示にて
呉文聰を紹介

令和7年は5年に1度実施される国勢調査の年でした。この国勢調査の礎を築き、その実現に生涯をかけて取り組んだ人物の1人が、箕作阮甫の孫で、統計学者の呉文聰くれあやとしです。彼の功績を紹介するスポット展示を8月21日（木）から開始しました。展示作業は、博物館実習生による展示実習の一環として行われ、パネル作りや資料の配置に苦戦しながらも、立派に作り上げることができました。また、展示後には新聞の取材対応や展示解説も行いました。



博物館実習生による展示の様子

津山まちじゅう体験博が行われました！



11月9日（日）、津山まちじゅう体験博（まち博）の一環で、「津山洋学資料館の館長とめぐる津山洋学の世界」が催されました。「まち博」は令和6年度から実施されていますが、洋学資料館を会場とする取り組みは今回が初めてです。

小島徹館長のガイドのもと、宇田川家や箕作家を中心とする、津山の洋学の歴史についての詳細な解説がありました。

当日は事前に申し込まれた、8名の方が参加され、1時間半という短い時間ではありましたが、洋学者のエピソードや資料の豆知識など尽きぬ話に時間いっぱい楽しんでいらっしやいました。

新収蔵資料紹介

寄託

■山野家資料 22件22点

津山で町医者をしていた、江田興庵が旧蔵していた医学書など。山野邦子さんよりご寄託いただきました。



寄贈

■北島家資料 159件184点

箕作家縁戚で、宮内省に出仕し、権掌侍を務めた、北島以登子にまつわる資料。北島苑子さんより追加寄贈いただきました。

■長岡家資料 4件26点

箕作家縁戚で、物理学者である長岡半太郎が旧蔵していた書籍。

長岡あき子さんよりご寄贈いただきました。

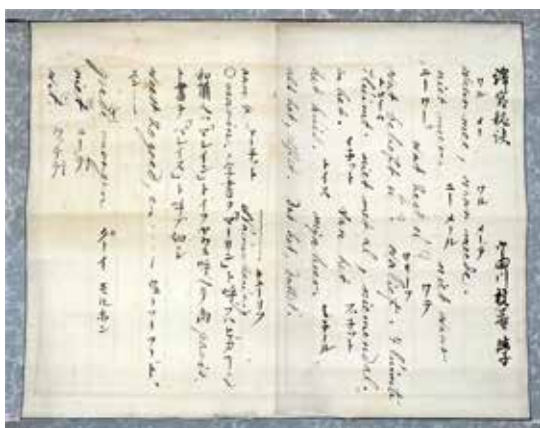
購入

■尾崎行雄・犬養毅・外山正一・菊池大麓文部大臣書翰 1巻

数学者の菊池大麓が文部大臣を務めていた時の書簡。

■宇田川榕菴自筆草稿 「訳官秘訣」 1幅

和蘭通詞がオランダ語を訳す際の秘訣を書いたもの。



資料館展示品から

津山初の人体解剖の様子

腑分けのジオラマ



ヒトの体は五臓（心臓・肝臓・腎臓・肺臓・脾臓）と六腑（大腸・小腸・胃・胆・膀胱・三焦）からできている、という中国から学んだ「五臓六腑」説が、長い間、信じられていました。しかし「三焦」という、現在からみても正体不明の臓器が出てくるように、それらの位置や役割などはほとんど分かっていませんでした。日ごろから疑問に思っていた朝廷の医師・山脇東洋は、西洋の医学書の解剖図を見て、あまりの違いに驚きました。

人体を解剖して、臓器の位置や役割、あるいは病気の原因を明らかにするのは、今では常識ですが、日本では長い間、解剖は

禁止されていたのです。山脇東洋は京都にいた江戸幕府の役人である京都所司代からなんとか許可を得て、宝暦4年（1754）2月に刑死体を解剖しました。「小腸と大腸は2つの独立した臓器ではなく、1本の管となつてつながっていること」は明らかにできませんでしたが、5年後に貴重な解剖の結果を図にした解剖書『蔵志』を出版しました。それ以来、実際に自分の目で観察したいと、望む医師たちの願いが受け入れられて各地で解剖や、その見学が行われるようになりました。

明和8年（1771）3月の江戸の小塚原刑場での解剖には、安永3年（1774）

に『解体新書』を刊行する杉田玄白、前野良沢、中川淳庵らが立会っています。津山藩医の宇田川玄随は、彼らと深く交流することによって、蘭学に目覚めました。

寛政4年（1792）10月19日、兼田河原で処刑された胴体を牢屋（伏見町裏、本琳寺西隣）の御仕置場に移し、津山初の人体解剖が行われました。開臓を担当したのは玄随で、藩医の井岡道安、島崎周栄、河合玄碩、丹治隆玄、川島修安のほか、玄随の弟子の戸川町の医師・田外玄洞と元魚町の医師・高島道友が立会っています。

このジオラマは、その津山初の人体解剖の様子を推定して再現したものです。当時の記録としては、津山藩の「町奉行日記」に記された文章のみで、絵画資料は今のところ確認されていません。また、そもそも腑分けの記録として、人体そのものを描写した解剖図は全国に数多く残されていますが、腑分けをしている様子を俯瞰的に描いた図は乏しく、文化5年（1808）に海上随鴎が主導して行われた様子を描いた「解剖場図」などわずかしかなかく、そうした絵画記録を参照して作成されました。なお、色合いをリアルに再現すると、直視し難いものになってしまうため、開臓中の人体を含めて人物はすべて、白を基調とした淡い着色にとどめています。

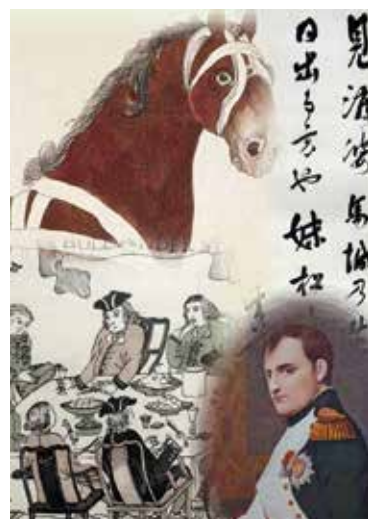
文：当館常設展示図録における解説に加筆

INFORMATION

令和8年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 前期企画展「資料が秘めた物語Ⅵ」 18 第79回文化講演会 18 友の会総会 (休館日：13・20・27・30日)	資料が秘めた物語Ⅵ
5月	(休館日：7・8・11・18・25日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会研修バス旅行 (休館日：1・8・15・22・29日)	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：6・13・21・22・27日)	
8月	<ul style="list-style-type: none"> むかしの学者もやった化学実験 人体のしくみとはたらきについて学ぼう！ (休館日：3・10・12・17・24・31日)	
9月	(休館日：7・14・24・25・28日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 3 蘭学・洋学 三津同盟締結5周年記念シンポジウム(於 中津市) 10 秋季企画展「浪花の蘭学者 緒方洪庵と津山藩医 宇田川家・箕作家との師弟交流(仮)」 第3回 蘭医学サロン誘置開催 (休館日：5・13・14・19・26日)	10/10～ 浪花の蘭学者 緒方洪庵と 津山藩医 宇田川家 箕作家 との師弟交流(仮) ～11/15
11月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：2・4・9・16・24・25・30日)	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 5 後期企画展「宇田川榕菴の研究ノート(仮)」 (休館日：7・14・21・28～31日)	12/5～ 宇田川榕菴の 研究ノート(仮) ～2/14
1月	<ul style="list-style-type: none"> 24 オムニバス講演会 (休館日：1～4・12・13・18・25日)	
2月	(休館日：1・8・12・15・22・24日)	
3月	(休館日：1・8・15・23・24日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会 ※催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



資料が秘めた物語Ⅵ

令和8年度 津山洋学資料館 前期企画展

3月7日(土) ～ 9月23日(水祝)

… 刊行物のお知らせ …

■ 洋学研究誌「一滴」第33号を刊行しました。

目次

- 黒船来航前のアメリカ人物伝
—「ジョージ・ワシントン」を訳した箕作阮甫・省吾—
… 橋本真吾
 - 令和6年度企画展報告
資料が秘めた物語Ⅴ
中津藩と蘭学の夜明け
津山藩最後の藩医 芳村杏齋
 - 島原の乱におけるオランダの軍事協力とその意義について
— 江戸幕府のオランダに対する認識を通して —
… 土井康弘
- 3月刊行 全120頁 500円

第79回 文化講演会 開催

シーボルト家、箕作家にみる日独交流

— 広報外交、シーボルト顕彰事業をめぐって —

講師：関西学院大学教育学部 准教授 堅田 智子 先生

日時：令和8年4月18日(土) 13:30～

会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

ご利用案内

- 開館時間／9：00～17：00 (入館は16：30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

■ 入館料／

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <https://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分